

発展を目指す企業家のための経営指南役

No. 606

平成23年 3月14日(月曜日)

社 外 重 役

Selected Clients & Professionals Relationship

発行)株式会社ノースアイランド
 東京本社)東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル5F
 Tel.03-3216-2004 Fax.03-3216-0439
 大阪支社)大阪市北区中之島3-3-23 中之島ダイビル9F
 Tel.06-6448-2004 Fax.06-6448-0539

F P

税務会計

パソコンで実践している節約術
電力使用を抑えるさまざまな工夫

パソコン(PC)とプリンターなどの周辺機器の維持費にどのくらいの方が気を使っているかは、日経生活モニターによると、節約を意識するのは「価格やポイント付与率を比較しながら製品を選ぶ購入時だけ」という消費者が多いようだ。実践している節約術では61%が「何もしていない」。「している」人はわずかに22%で、残りは「分からない」。

節約派の中でも実践例が多かったのが、電力の使用を抑えること。「プリンターは使う時だけ電源を入れる」、「コードを抜かずに電源の切り替えができるタップを使い待機電力が発生しないようにする」、「デスクトップよりも消費電力が少ないノートに買い替えた」などの声が目立った。「簡単な検索はスマートフォンで済ませ、PCを立ち上げる回数が減った」等の声もあった。スマートフォンの機能はいずれPCに並び目的が二極化されると見る人が多い。

PC本体の使い方では「こまめにシャットダウン」と「電源は切らずにスリープ(一時的停止状態)にしておく」という二派に分かれた。写真等の「印刷には極力、裏紙を使う」、「インクは廉価品を使用」と、誰もが消耗品に気を使う。中には「プリンターは買わずコンビニや勤め先で済ませる」という“徹底派”もいた。

しかし、会社での仕事以外での使用は違反だ。そもそも生活には維持費が不可欠。節約も度を越すと人間関係が壊れ、IT機器を手放すハメになると言えよう。

09年分申告所得の納税者718万人
納税者1人平均所得金額493万円

国税庁発表の「税務統計から見た申告所得税の実態調査」結果によると、09年分の申告所得税の納税者数は前年比4.6%減の718万人と、4年連続で減少した。また、申告所得金額は同10.6%減の35兆3,865億円と3年連続減少、申告納税額は同12.8%減の4兆5,395億円と2年連続減少だった。

納税者数を所得者区分別にみると、給与所得者が全体の33.4%、雑所得者が28.1%、事業所得者が20.5%などとなっている。

2009年分の税額4兆5,395億円は、前年に比べ12.8%減少し、10年前(1999年分)に比べると4.5%減少している。税額の内訳をみると、源泉徴収税額は2兆2,670億円、申告納税額は2兆2,725億円、それぞれ前年に比べ11.4%、14.2%の減少。

また、所得階級別にみると、所得金額200万円以下の者の税額は750億円で全体の1.7%、500万円を超える者の税額は4兆1,935億円で92.4%をそれぞれ占めている。

2009年分における納税者1人あたりの平均所得金額は493万円(事業所得者389万円、給与所得者672万円、不動産所得者526万円、雑所得者202万円、他の区分に該当しない所得者1,810万円)で、前年と比べると6.3%減少し、10年前と比べると11.2%減少。1人あたりの平均税額は63万円で、前年と比べると8.6%減少し、10年前と比べると1.6%減少している。

なお、2009年分の所得税の負担割合は12.8%で、所得100万円以下の階級は1.4%、1億円を超える階級は26.4%となっている。

今週のキーワード

スリープ

CPU(中央演算処理装置)やハードディスク、モニター等の動作が一時的に停止する省エネ設定を指す。NECは「頻繁に使うのであればスリープ設定を使い、朝夕のメールチェック程度ならば、その都度シャットダウンするのがよい。PCの電源を切ってもコンセントにつながっていれば微量の待機電力が発生し、この状態とスリープ状態の消費電力の差は0.1ワット程度」という。PCは本体の起動時や画像編集ソフトの使用等でCPUに負荷がかかると消費電力が増す。

※配信先の変更、配信停止のご希望はお手数ですが Tel.03-3216-2004 または info@knowsi-land.jp までご連絡ください。